



News Letter

第 42 号 : 発行日 平成 30 年 5 月 31 日

肺結核について

肺結核について

厚生労働省の集計では、平成 28 年に新たに結核として登録された方の数（新登録結核患者数）は、全国で 17,625 人、前年より 655 人(3.6%)減少しています。しかし、都道府県別の新登録結核患者数は、47 都道府県のうち 10 の都府県で増加しており、新登録結核患者数が最も多いのは東京都の 2,340 人で、次いで大阪府の 1,945 人となっています。肺結核というと、過去の病気というイメージがありますが、都心部ではまだ罹患する人が多い病気です。

肺結核の症状

肺結核は、結核菌という細菌が体の中に入り、増えることによって起こる病気です。結核菌が肺の内部で増えて、結核に特有な様々な炎症が起こります。続いて、肺が破壊されていき、呼吸する力が低下します。初期の症状はかぜと似ていますが、せき、痰（たん）、発熱（微熱）などの症状が長く続くのが特徴です。また、体重が減る、食欲がない、寝汗をかく、などの症状もあります。さらにひどくなると、だるさや息切れ、血の混じった痰（たん）などが出始め、血を吐くこともあります。

肺結核の主な症状



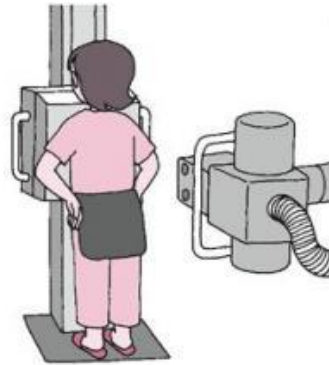
このような症状が 2 週間以上続いたら注意！

肺結核を調べる検査

・ X 線撮影検査

胸部 X 線撮影を行い肺結核が疑わしい陰影の有無をチェックします。

肺に炎症や腫瘍がある場合は、正常な血管影（白い筋状の影）とは違う異常（塊状、不整な）な白い影が写ります。肺結核の場合、病変が大きいと異常な影は特徴的な形になりますが、小さい場合には他の肺炎や腫瘍と見分けがつかない場合もありますので、胸部 X 線検査で異常な影を認めた場合には CT 装置で精密検査を行います。



胸部 X 線検査



胸部 X 線画像

左肺に円形の白い異常な影が認められます。（赤丸の部分）

肺結核は他の人からうつる（又はうつす）可能性がありますので、家庭や学校・会社など規模の大小に関わらず、常に感染の危険性はゼロではありません。不特定多数の人が集まる空間も、潜在的な危険性がないとはいえません。特に結核が流行している国や地域からの帰国後には、注意が必要です。初期症状はかぜと似ていますが、2週間以上、せきや痰（たん）、微熱が続くようなら、早めに病院を受診し、症状が進行する前に診断し治療を行いましょう。それにより、周囲の人への感染を予防することができます。

胸部 X 線検査・CT 検査の予約やご相談は、Tel.03-3668-6800 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局

Tel.03-3668-6803 / E-mail:mail@soiken.or.jp